

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3171500394		
法人名	社会福祉法人 麗明会		
事業所名	グループホーム ばんだの里 1 (まとめ)		
所在地	鳥取県西伯郡大山町安原1118-1		
自己評価作成日	平成29年11月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人未来		
所在地	鳥取県倉吉市東仲町2571番地		
訪問調査日	平成30年1月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>①のどかな環境の中、一人ひとりの思いを大切に地域の方とも行事や散歩などで交流し理解を得ながら安心して暮らせるよう支援している。職員一人ひとりが入居者様と生活を共にしている事を意識し、寄り添いながらゆっくと関わりをもつように心がけている。</p> <p>②生活リハビリを職員と一緒にしたり、日々生活の中でも体を動かす機会を作ったりと暮らしの中で健康の維持向上ができるような支援を努めている。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・月1回の往診を受け、日常は各ユニットの看護師と連携を図り、体調管理を行なっている。 ・看護師は看取りの研修に参加して最新情報を伝達し、看取りに対しても積極的である。 ・介護の専門性を高めるため外部研修を積極的に計画・実施している。 ・ボランティアの協力を得ながら、利用者が楽しめるようさまざまな企画をしている。 ・職員の意見や家庭の状況を把握し、長く働けるよう配慮するなど、働きやすい職場づくりに努めている。そのことによりケアの継続と質の向上に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

★ 努力している点

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の申し送りの際、管理者と職員は介護理念の唱和を行い良い支援が出来るように努めている。	ユニットの入り口に「事業所の理念」と「介護理念」を掲示している。また、管理者と夜勤者・早出職員で朝の申し送りの後、介護理念を唱和して共有し、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ボランティアの方との交流・公民館祭りへの作品の出展、地域の運動会への参加等で交流を行っている。	ボランティアの人が、琴の演奏で訪れたり、地域の運動会に参加するなど地区の公民館とは良い関係が出来ている。歌謡ショーには地域の人が多く訪れ、共に楽しい時間を過ごした。	運営推進委員からのアドバイスもあり、地区子ども会との交流を計画する予定がある。普段でも訪問しやすい事業所になることを期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の行事等に参加する事で施設の役割を理解して頂くよう努めている。ボランティアや研修生を受け入れる事で施設への理解を深めて頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日々の取り組みや状況を報告し委員の皆様との話し合いの中で頂いた意見や助言等がサービス向上に活かせるよう努めている。	運営推進会議には行政・地域代表・利用者及び家族の参加がある。日々の取り組みや状況を報告して意見交換をし、サービス向上等に努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議で入居者様の状況を報告しアドバイス・助言等を頂いている。	町担当者と日頃から連携している。事業所の様子や状況を積極的に伝えたり、町から認知症高齢者等の相談を受けるなど、お互いに協力しあっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	各居室や玄関は夜間以外は施錠はしない。点滴施行時でも出来るだけ共有スペースで職員の見守りで実施しているが、必要によりお家の方に協力もお願いしている。	身体拘束廃止委員会があり、随時開催されている。「緊急やむを得ない身体拘束に関する説明書」があり、必要な時は利用者家族との確認を書面で交わしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	カンファレンス時に話し合ったり、研修の伝達復命を行い、日々の業務で意識しながら防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会の内容をカンファレンス時に伝達し話し合っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前には本人・家族様に見学してもらい、疑問点や不安なことなどをお聞きし同意を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に入居者様と家族様に参加してもらい意見や助言を頂いている。随時ミーティングやカンファレンス等でも話合っている。	利用者、家族等の意見は、運営推進会議の時や、面会時に随時聞くようにしている。利用者がふだん安心して暮らせるよう、意見の反映に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃のミーティングや定期のカンファレンス・リーダー会等で意見や提案を聞き反映させている。	★職員の意見や家庭の状況を把握し、長く働けるよう配慮するなど、働きやすい職場づくりに努めている。朝のミーティングや月2回のカンファレンス等で職員の意見や提案を聞き、運営に反映できるようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	研修会参加、資格取得等のバックアップ、資格手当、労働条件等考慮させている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会参加を年間計画に添って実施。カンファレンス時に報告し、職員が共有できるようにしている。外部講師を施設に招いて職員勉強会を実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設との相互研修や交流会などを行っている。協力医療機関より講師を招いて内部研修を計画し実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	意思疎通が難しい方でも、本人の希望や思いを汲み取り職員間で話し合い、安心して生活して頂けるよう関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	信頼関係が早期に築けるよう、本人・ご家族の思いを、じっくりとお聞きし出来るだけ希望が実現できるよう支援している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族様の希望をお聞きし、主治医にも意見・助言を頂きながら要望に添うよう対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	役割として出来る事を生活の中で見極めながら、一緒に楽しく出来るよう支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会・電話・お手紙で生活の様子や体調などお話ししている。気軽にいつでも来やすいユニットの雰囲気となるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の知人宅へ訪問に行ったり、本人や家族様から昔の話をお聞きしたり、生活の中でも思いだして頂けるよう、支援に努めている。	知人の見舞いや香典を届けたり、近所の情報を伝えてもらっている。また、家族と墓参りや初盆に帰るなど、馴染みの場所に出かける利用者もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや日頃の役割の中で仲立ちを行う事で、良好な関係が保てるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	電話で様子をお聞きしたり、訪問に行ったりし家族様に現在の様子をお聞きするよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で今思ってる事や意向など確認している。また、表情や行動でも把握するよう努めている。	個別に声をかけ、意向を聞いているが、口数が少なく、希望を把握しにくい利用者もいる。歩行訓練や散歩の際、声をかけるようにしている。	散歩など、さらに声をかける機会を増やし、刺激や変化を創り、意向の把握に努めてほしい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活状況を家族様にお聞きし、関係機関とも連携をとりながら、本人にとって暮らしやすい環境となるよう支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活状況と体調などの把握に努め、日々充実した暮らしと活動ができるよう支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族様・主治医・職員間・関係機関等と連携を密にとり現状に即した介護計画を作成するよう努めている。また、毎朝の申し送りと毎月もしくは必要時のカンファレンスで意見交換を行っている。	個別記録にはケアの実践記録がある。毎月のモニタリングは支援経過記録にまとめ書きしている。気になることは朝の申し送りやカンファレンスで意見交換し、連絡簿により共有し、介護計画にも反映できるよう努めている。	ケアの中での気づきや利用者の反応などを個別記録に残し、それをモニタリングに反映できるよう、さらに記録の充実を図ってほしい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録や連絡ノートがいつでも確認でき、統一した支援が実施出来るようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族様や近隣の方と連携をとりながら本人の心配事や日々の通院など柔軟な対応に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の診療所からリハビリ専門職の派遣や消防署の協力で総合防災訓練を行っている。また、ボランティアの方々による歌・踊り等楽しんで頂いている。地区の運動会にも参加し、地域の方と一緒に楽しんで頂けるよう支援している。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月1回定期往診して頂き、特変時には都度主治医・看護師に相談し、家族様へも随時連絡を入れ一緒に同伴して頂くよう支援している。	★基本的にはほとんどの利用者が協力医の往診を月1回受け、体調面や往診の様子を記録し往診つづりに残している。日常の体調管理は各ユニットの看護師と相談や連携を図って行なっている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者様の日々の様子を見ながら、異変などがあればすぐに相談し、適切に受診・看護が受けれるよう努めている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関、家族様との情報交換・相談など、連携を密にとり早期に退院できるよう努めている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族様の要望をお聞きし、協力医院とも連携を密に取りながら、事業所として出来る事を説明し、出来るだけ要望にお答えできるよう支援している。	★入居時に、重度化した場合や緊急時においての確認書を交わしており、利用者・家族の意向にできるだけ添えるよう、チームで取り組んでいる。一昨年は協力医と連携し、看取りを行った。看護師は看取りの研修に参加し、最新情報を伝達している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内で消防署の協力を頂き定期的に救急蘇生法の講習会を開催している。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力で定期的に総合防災訓練を実施している。地区自治会と地域福祉の向上及び防災減災を目的とした覚書を交わしている。	運営推進会議の日に合わせ、地区自治会や利用者・家族・行政の合同で総合防災訓練を年2回実施している。地域の自衛消防組織の参加は平日でもあり、難しい。	避難所にもなっており、現状に合った風水害や地震等の災害マニュアルへの見直しを期待する。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言動に配慮し、一人一人のプライバシーを大切にしたい支援となるよう心がけている。	利用者が楽しい気持ちで過ごせるよう人格を損ねないような言葉かけ等に配慮している。気になる言動があった時は、その都度管理者が注意喚起している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様の思いや希望を表現できるよう、日常生活の中で声掛け傾聴し、自己決定ができるよう支援している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の思いや希望に添うよう、入居者様のペースを大切にしながら支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい服装やおしゃれができ気持ちよく暮らせるよう支援している。月1回の訪問理容サービスを利用している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人の摂取機能に合わせて食事を提供し、気持ちよく食べる事ができ楽しみとなるよう、見守り声掛け支援等を行いながら一緒に食事を楽しんでいる。	ホーム入居時には食事の好みを聞き、対応している。食事前は口腔体操をして手や机の消毒をし、皆がそろって食べるようにしている。職員はさり気なく声掛けや見守りをし、利用者個々のペースで食事を楽しんでいる。	厨房から作り配膳車で届くが、食事の際には温度が冷めているように感じた。メニューを活かし、利用者が満足する温度で提供できるよう、さらに工夫してほしい。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量が分かるように毎日記録している。また、目標の水分量が飲めるよう好みに合わせた飲み物を提供している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛けにより出来る部分は磨いて頂き、磨き残しがないか確認し出来てない部分は支援を行っている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の様子・排泄パターンとチェック表を確認し排泄案内を行っている。	個々の排泄パターンを把握し、出来る限りトイレで排泄できるよう支援している。夜間も各居室のトイレで支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取・排便チェックを日頃より確認し、毎日、生活リハビリ・体操・歩行・立位保持・立ち上がり等、取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	声掛けやタイミングを考慮しながら体調と気分に合わせて入浴を楽しんで頂けるよう日々支援している。	週2回午前中、体調と気分に合わせて入浴を楽しめるよう支援している。入浴を望まない場合は、チームプレイ等によって、一人ひとりに合わせて支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの希望や状態に合わせ、自由に過ごしてもらっている。日々生活リズムを整えながら安心して眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬支援前にはチェック表と薬の内容・入居者様の名前・日付けを声に出して確認している。また、薬などの変更があった場合は状態に変化が見られないか注意し支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その時の気分や体調により、一人ひとりに合った役割・楽しみを提供し穏やかで喜びのある生活が出来るよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域の運動会や家族様との外出行事・日々の散歩などの外出支援し季節感を肌で感じて頂くよう努めている。	家族会の時は、皆の協力を得て車で遠くまで出かけ楽しんでいる。その日の天候等を考慮して、個々に応じた散歩に出かけるよう支援している。また、食材を取りに行く・新聞を受け取るなど日課にしている。	重度化に伴い、散歩など難しくなっているが、さらに工夫してほしい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	殆どの方が自己管理が困難であり、金銭管理は職員が行っている。入居者の方の希望により買物等 必要な時には家族様と連絡を取り合い対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎月お手紙により状況のお知らせを行っている。入居者様の希望に応じて職員が家族様や知人へ電話の取次ぎ等も支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様に安心して過ごして頂けるよう 家族様と一緒に撮った写真を居室内に飾り、共有スペース内は季節を感じれる生け花等を飾り付け、落ち着いて過ごして頂くよう支援している。	トイレは車いすでもゆったりと使え、浴室、脱衣室ともエアコンが整備されている。建物の周りは広く開けた田園風景が見られ、窓からも季節を感じる事が出来る。	共有フロアは見守り支援がし易くなっているが、狭く感じられる。フロア以外でも居心地よく過ごせるスペースや空間について意見交換してみてもどうか。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	巡回図書で借りられた本を読んで頂いたり、パズルや音楽鑑賞など楽しんで頂いたり一人ひとりが自由に過ごして頂けるよう支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族様の写真等を置いたり、使い慣れた家具を持参されたりと居心地の良い生活を送って頂けるよう支援している。	居室ごとにトイレがあり、収納スペースも十分あり、家具はさほど必要ない。壁や入口のドアには手作りの作品や写真が飾っており、居心地よく生活できるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様の状態に応じ出来る事を行って頂き、出来ない所は声掛けしながら職員と一緒に出来るよう配慮しながら支援している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3171500394		
法人名	社会福祉法人 麗明会		
事業所名	グループホーム ばんだの里 2		
所在地	鳥取県西伯郡大山町安原1118-1		
自己評価作成日	平成29年11月21日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人未来		
所在地	鳥取県倉吉市東仲町2571番地		
訪問調査日	平成30年1月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>①面会に来所されても、ゆっくりとお話ができるアットホームなユニットの雰囲気作りを心がけ、家族様の不安・困ったこと等も話せるように気配りしている。</p> <p>②入居者様・家族様と信頼関係を築き住み慣れた地域の中で安心して暮らす事ができ、人間の尊厳を守り寄添いながら楽しみのある生活ができるような支援に努めている。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

別紙参照

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 適いの場合やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日申し送り時、介護理念を唱和し実践に活かす事ができるよう意識付けを行っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ボランティアの方との交流・公民館祭りへの作品の出展、地域の運動会への参加等で交流を行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の行事等に参加する事で施設の役割を理解して頂くよう努めている。ボランティアや研修生を受け入れる事で施設への理解を深めて頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業活動報告を詳細に行っている。特に力を入れている事をや入居者様の変化・対応・ひやりハット・事故など細かく報告している。会議で頂いた意見等は活動やサービス向上に活かすよう努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議で入居者様の状況を報告しアドバイス・助言等を頂いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定期準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修会に参加し報告会を通し周知を図っている。居室や玄関は夜間以外は施錠はしない。点滴などの実施時にも、固定はしないよう見守りのできる場所で行ったり、家人にも協力などお願いしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	カンファレンス時に話し合ったり、研修の伝達復命を行い、日々の業務で意識しながら防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会の内容をカンファレンス時に伝達し話し合っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前には本人・家族様に見学してもらい、疑問点や不安なことなどをお聞きし同意を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に入居者様と家族様に参加してもらい意見や助言を頂いている。随時ミーティングやカンファレンス等でも話合っている		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃のミーティングや定期的カンファレンス・リーダー会等で意見や提案を聞き反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	研修会参加、資格取得等のバックアップ、資格手当、労働条件等考慮させている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会参加を年間計画に添って実施。カンファレンス時に報告し、職員が共有できるようにしている。外部講師を施設に招いて職員勉強会を実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設との相互研修や交流会などを行っている。協力医療機関より講師を招いて内部研修を計画し実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の訪問時、本人・ご家族・担当ケアマネ等から思いをじっくりとお聞きしながら、早期に信頼関係が構築できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	信頼関係が早期に築けるよう、本人・ご家族の思いを、じっくりとお聞きし出来るだけ希望が実現できるよう支援している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	カンファレンス時に主治医より意見助言等を頂き、本人・ご家族の意に沿えるかを見極め他のサービスも含め検討を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として意見や助言を頂く事もあり、また生活の中で洗濯物たたみ等をお願いしたり、暮らしを共にする者同士の関係を築けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月に一回、手紙にて様子を報告し、面会時や必要に応じて電話などで暮らしの様子などをお伝えしている。家族様や知人などの面会時には仲立ちを行い、ゆっくりと談笑ができる場所と時間を設けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつでも気軽に来て頂けるよう、アットホームな環境作りを行っている。面会に来られた方のお名前を記録し次回面会時にはお名前でお呼びするなどし、馴染みの関係を築けるよう心がけている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様ひとり一人の性格・個性を把握し、入居者同士の橋渡しを行うことで孤立することなく関わり合いを持てるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了後であっても、何かあったら気軽に相談して頂くよう声掛けしている。また、転所先に訪問することもある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で今思っている事や意向などを確認している。また、表情や行動でも把握するよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活状況を家族様にお聞きし、関係機関とも連携をとりながら、本人にとって暮らしやすい環境となるよう支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活状況と体調などの把握に努め、日々充実した暮らしと活動ができるよう支援している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族様・主治医・職員間・関係機関等と連携を密にとり現状に即した介護計画を作成するよう努めている。また、毎朝の申し送りや毎月もしくは必要時のカンファレンスで意見交換を行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録や連絡ノート等、すぐに関覧ができ情報共有し統一したケアが実践できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	緊急時の入退院等の付添いや、日々の通院など柔軟な対応と家族様とも連携協力を密にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防者に協力により避難訓練や消火訓練を地域の方にも参加頂き行っている。また、行事等でボランティアの方々に来て頂いたり、地域の文化祭等に日頃の生活の中で作った作品を出展したりし、地域の方々との交流を図っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月1回定期往診して頂き、特変時には都度主治医・看護師に相談し、家族様へも随時連絡を入れ一緒に同伴をして頂くよう支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設の施設・ユニット毎に看護師を配置している。入居者様の日々の様子を見ながら、異変などがあればすぐに相談し、適切に受診・看護が受けられるよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関、家族様との情報交換・相談など、連携を密にとり早期に退院できるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族様の要望をお聞きし、協力医院とも連携を密に取りながら、事業所として出来る事を説明し、出来るだけ要望にお答えできるよう支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の協力で救急蘇生法の講習を定期的に行っている。また、普段から看護職との連携を図り急変時・事故発生時のマニュアルを常に意識している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力で定期的に総合防災訓練を実施している。地区自治会と地域福祉の向上及び防災減災を目的とした覚書を交わしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ひとり一人の人格を尊重しながら、プライバシーを大切にし言動に配慮して支援するように心がけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様の思いや希望を表現できるよう、日常生活の中で声掛け傾聴し、自己決定ができるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ひとり一人の思いや希望に添うよう、入居者様のペースを大切にしながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った服装や身だしなみができるよう支援している。月一回の訪問理容サービスを利用している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人の摂取機能に合わせ食事を提供し、気持ちよく食べる事ができ楽しみとなるよう、見守り声掛け支援等を行いながら一緒に食事を楽しんでいる。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	目標の水分量が飲めるよう好みの物を提供している。食事、水分摂取量が分かるよう毎日個別のチェック表を付け確認している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個別の能力に合わせ見守り、声掛け、介助等の支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者様の様子やチェック表を確認しながら自尊心にも配慮し排泄の支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日のリハビリ体操や廊下歩行などで身体を動かし、ひとり一人に合わせた排泄パターンを職員間で話し合い自然排便ができるよう支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は一応決めてはいるが、気分・体調や希望などを考慮し、入浴を楽しんで頂くよう柔軟に支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの希望や状態に合わせ、自由に過ごしてもらっている。日々生活リズムを整えながら安心して眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬品カードを個別のファイルに保管し全職員が把握確認が出来るようにしている。入居者様に変化がある場合はすぐに主治医に相談し指示を頂き支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その時の気分や体調により、一人ひとりに合った役割・楽しみを提供し穏やかで喜びのある生活が出来るよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	ひとり一人の希望・思い・その時の状態を把握し、家族様とも連携をとり気分転換が出来るよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	殆どの方が自己管理が困難であり、金銭管理は職員が行っている。入居者の方の希望により買物等 必要な時には家族様と連絡を取り合い対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎月お手紙により状況のお知らせを行っている。入居者様の希望に応じて職員が家族様や知人へ電話の取次ぎ等も支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様に安心して過ごして頂けるよう 家族様と一緒に撮った写真を居室内に飾り、共有スペース内は季節を感じれる生け花等を飾り付け、落ち着いて過ごして頂くよう支援している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々の能力や介助の必要度を配慮するだけでなく、気の合う入居者様同士が会話できるような席の配慮に努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族様の写真等を置いたり、使い慣れた家具を持参されたりと居心地の良い生活を送って頂けるよう支援している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ひとり一人の能力や その時々々の体調に配慮しながら支援を行っている。		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	地区の運動会に参加したり公民館祭りへ作品を出展したりし地域の皆様と交流を行っている。施設の近くにあった保育所が合併により遠方地になってしまい、これまで行っていた交流が実施しにくくなっている。	地区の子供会、保育所との交流会の実行。	地区の子供会役員さんに交流会の開催をお願いし実行できるような内容を検討し計画する。遠隔地だが保育所へも交流会が出来ないか打診する。	12ヶ月
2	23	認知症の進行や重度化により希望や意向の把握が難しくなっている。個々への工夫や、日々の支援により出来るだけ思いや意向を読み取る。また1人ひとりの気持ちを尊重した柔軟な対応が行えるようにしたい。	個々の思いの把握に努め、意向に添った暮らしが実現できるよう支援する。	その日の体調、気分、天候などにより適時声かけを行い、馴染みの場所、周辺の散歩、地域の行事などへ参加する機会を増やす。意向や思いをくみ取り自分の思うところに、いつでも出かけられるよう支援する。	12ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。